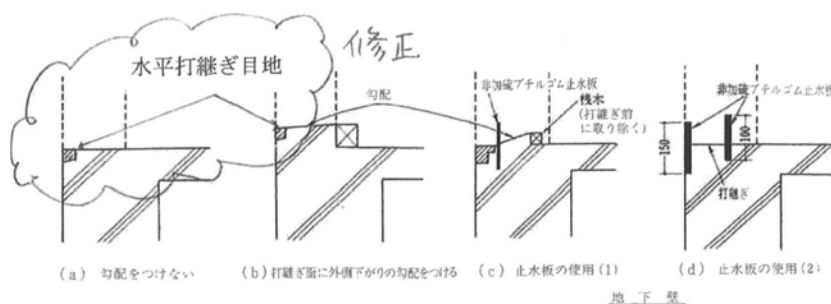


2016年2月12日

2017年2月20日 (部分を追記)

「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」〔第14版〕正誤表

節	頁	行	誤	正
3	11 185	3.7a 本文3行目	…マスコンクリート <u>の</u> 使用するコンクリート…	…マスコンクリート <u>における</u> 使用するコンクリート…
3	11 185	3.7b 本文3行目	…水中コンクリート <u>の</u> 構造体コンクリート…	…水中コンクリート <u>における</u> 構造体コンクリート…
4	225	下から4行目	アルカリ骨材反応抑制対策として	アルカリシリカ反応抑制対策として
5	17 234	5.2a 本文1行目	…(5.1)式よって…	…(5.1)式 <u>に</u> よって…
5	237	上から1行目	2009年の改定で…	<u>c.</u> 2009年の改定で…
5	241	下から3行目	なお、凍結融解作用の	なお、激しい凍結融解作用の
6	21 260	6.4c 本文7行目	…品質管理結果を <u>掲</u> 示させ…	…品質管理結果を <u>提</u> 示させ…
6	257	上から4行目	①アルカリ骨材反応の抑制 <u>方</u> 法として…	①アルカリシリカ反応の抑制 <u>対</u> 策として…
6	258	上から14行目	…「附属書 B (規定) アルカリシリカ反応抑制対策の方法」…	…附属書 B (規定) 「アルカリシリカ反応抑制対策の方法」…
6	258	上から16行目	…アルカリ骨材反応抑制対策として…	…アルカリシリカ反応抑制対策として…
6	258	下から11行目	…アルカリ骨材反応の抑制対策方法などを…	…アルカリシリカ反応の抑制対策方法など…
6	261	解説表 6.5	粒度・粒形判定 <u>実績</u> 率	粒度・粒形判定 <u>実積</u> 率
6	261	解説表 6.5	粗骨材の <u>実績</u> 率	粗骨材の <u>実積</u> 率
7	281	解説図 7.9	(a)と(b)の図	(a)と(b)の図に水平打継ぎ目地を記入する。



解説図 7.9 外壁の水平打継ぎ方法の例

節	頁	行	誤	正
8	285	上から 5 行目	(社) 建築業協会型枠小委員会	旧 (社) 建築業協会型枠小委員会
9	30 302	5.2d 表 9.1	下記の通り	下記の通り

(誤) 表 9.1 型枠設計用コンクリートの側圧

打込み速さ	10m/h(1.67m/10min) 以下の場合		10m/h(1.67m/10min)を超え 20m/h(3.33m/10min)以下の場合		20m/h (3.33m/10min) を超える場合
	H (m)		H (m)		H (m)
部位	1.5 以下	1.5 を超え 4.0 以下	2.0 以下	2.0 を超え 4.0 以下	4.0 以下
柱	W_0H	$1.5W_0+0.6W_0\times(H-1.5)$	W_0H	$2.0W_0+0.8W_0\times(H-1.5)$	W_0H
壁		$1.5W_0+0.4W_0\times(H-1.5)$		$2.0W_0+0.4W_0\times(H-1.5)$	

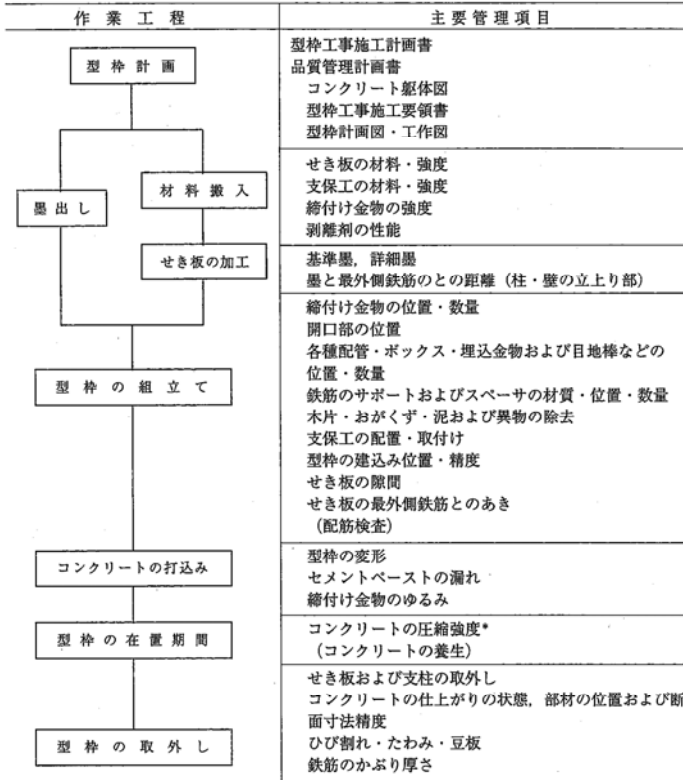
[注] H : フレッシュコンクリートのヘッド(m)(側圧を求める位置から上のコンクリートの打込み高さ)
 W_0 : フレッシュコンクリートの単位容積質量(t/m^3)に重力加速度を乗じたもの(kN/m^3)

(正) 表 9.1 型枠設計用コンクリートの側圧

打込み速さ	10m/h(1.67m/10min) 以下の場合		10m/h(1.67m/10min)を超え 20m/h(3.33m/10min)以下の場合		20m/h (3.33m/10min) を超える場合
	H (m)		H (m)		H (m)
部位	1.5 以下	1.5 を超え 4.0 以下	2.0 以下	2.0 を超え 4.0 以下	4.0 以下
柱	W_0H	$1.5W_0+0.6W_0\times(H-1.5)$	W_0H	$2.0W_0+0.8W_0\times(H-2.0)$	W_0H
壁		$1.5W_0+0.2W_0\times(H-1.5)$		$2.0W_0+0.4W_0\times(H-2.0)$	

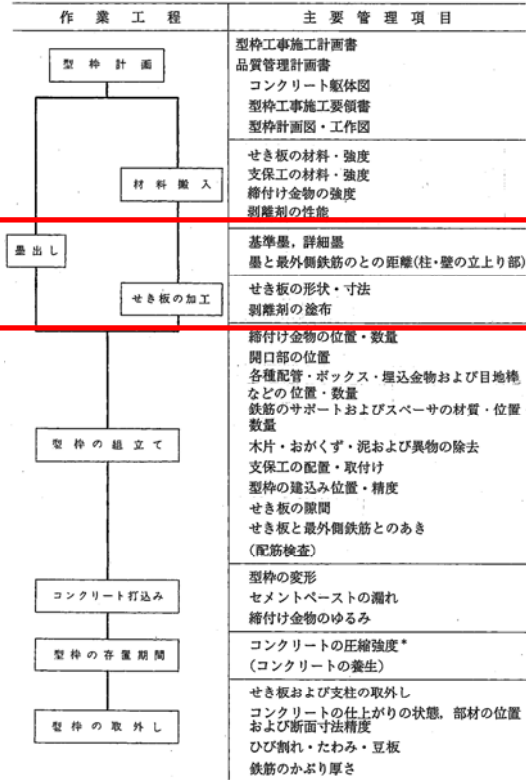
[注] H : フレッシュコンクリートのヘッド(m)(側圧を求める位置から上のコンクリートの打込み高さ)
 W_0 : フレッシュコンクリートの単位容積質量(t/m^3)に重力加速度を乗じたもの(kN/m^3)

節	頁	行	誤	正
9	307	解説図 9.2	次ページの図の通り	次ページの図の通り 主要管理項目に「せき板の加工」に関する項目を追記



[注] *JASS 5 T-603 (構造体コンクリートの強度推定のための圧縮強度試験方法) (付12参照) による。

(誤)



[注] * JASS 5 T-603 (構造体コンクリートの強度推定のための圧縮強度試験方法) (付12参照) による。

(正)

解説図 9.2 型枠の計画から取外しまでの作業工程と主要管理項目 (例)

節	頁	行	誤	正
9	309	解説表 9.5	表の最下行の列がズレている	下表のとおり

解説表 9.5 圧縮強度 5N/mm² が得られる材齢 (AE 減水剤使用)

セメントの種類	呼び強度	調合強度	養生温度に対応する養生日数 (日)				
			2℃	5℃	10℃	15℃	20℃
普通ポルトランドセメント	21	25	5.0	4.0	3.0	2.0	1.5
	24	28	5.0	3.5	2.5	2.0	1.5
	27	31	4.5	3.5	2.5	2.0	1.5
	30	35	4.0	3.0	2.0	1.5	1.5
	33	38	4.0	3.0	2.0	1.5	1.0
	36	42	3.5	3.0	2.0	1.5	1.0
	40	46	3.5	2.5	2.0	1.5	1.0
早強ポルトランドセメント	21	25	3.5	2.5	2.0	1.0	1.0
	24	28	3.5	2.5	1.5	1.0	1.0
	27	31	3.0	2.5	1.5	1.0	0.5
	30	35	3.0	2.5	1.5	1.0	0.5
	33	38	3.0	2.0	1.5	1.0	0.5
	36	42	3.0	2.0	1.5	1.0	0.5
	40	46	3.0	2.0	1.5	1.0	0.5
高炉セメント B 種	21	25	9.0	6.5	4.5	3.0	2.0
	24	28	8.0	6.0	4.0	2.5	2.0
	27	31	7.5	5.5	3.5	2.5	1.5
	30	35	6.5	5.0	3.0	2.0	1.5
	33	38	6.0	4.5	3.0	2.0	1.5
	36	42	5.5	4.0	2.5	2.0	1.5
	40	46	5.0	4.0	2.5	1.5	1.0
フライッシュセメント B 種	21	25	6.0	4.5	3.0	2.5	2.0
	24	28	5.5	4.0	3.0	2.0	1.5
	27	31	5.0	4.0	2.5	2.0	1.5
	30	35	5.0	3.5	2.5	2.0	1.5
	33	38	4.5	3.5	2.5	1.5	1.0
	36	42	4.5	3.5	2.5	1.5	1.0
	40	46	4.0	3.0	2.0	1.5	1.0

(誤)

セメントの種類	呼び強度	調合強度	養生温度に対応する養生日数 (日)				
			2℃	5℃	10℃	15℃	20℃
普通ポルトランドセメント	21	25	5.0	4.0	3.0	2.0	1.5
	24	28	5.0	3.5	2.5	2.0	1.5
	27	31	4.5	3.5	2.5	2.0	1.5
	30	35	4.0	3.0	2.0	1.5	1.5
	33	38	4.0	3.0	2.0	1.5	1.0
	36	42	3.5	3.0	2.0	1.5	1.0
	40	46	3.5	2.5	2.0	1.5	1.0
早強ポルトランドセメント	21	25	3.5	2.5	2.0	1.0	1.0
	24	28	3.5	2.5	1.5	1.0	1.0
	27	31	3.0	2.5	1.5	1.0	0.5
	30	35	3.0	2.5	1.5	1.0	0.5
	33	38	3.0	2.0	1.5	1.0	0.5
	36	42	3.0	2.0	1.5	1.0	0.5
	40	46	3.0	2.0	1.5	1.0	0.5
高炉セメント B 種	21	25	9.0	6.5	4.5	3.0	2.0
	24	28	8.0	6.0	4.0	2.5	2.0
	27	31	7.5	5.5	3.5	2.5	1.5
	30	35	6.5	5.0	3.0	2.0	1.5
	33	38	6.0	4.5	3.0	2.0	1.5
	36	42	5.5	4.0	2.5	2.0	1.5
	40	46	5.0	4.0	2.5	1.5	1.0
フライッシュセメント B 種	21	25	6.0	4.5	3.0	2.5	2.0
	24	28	5.5	4.0	3.0	2.0	1.5
	27	31	5.0	4.0	2.5	2.0	1.5
	30	35	5.0	3.5	2.5	2.0	1.5
	33	38	4.5	3.5	2.5	1.5	1.0
	36	42	4.5	3.5	2.5	1.5	1.0
	40	46	4.0	3.0	2.0	1.5	1.0

(正)

節	頁	行	誤	正
9	313	式 (解 9.2)	$M_x = \frac{l_y^4}{l_x^4 + l_y^4}$	$M_x = \frac{l_y^4}{l_x^4 + l_y^4} \cdot W \cdot \frac{1}{12} \cdot l_x^2$
10	323	1 行目	作製することが望ましい。	<u>作成</u> することが望ましい。
10	354	解説表 10.7 検査項目欄	「 <u>側</u> 曲げ試験」「 <u>外側</u> 検査」	「 <u>曲</u> げ試験」「 <u>外観</u> 検査」
11	47 365	11.4b 本文 3 行目	アルカリ骨材反応対策を行う場合	アルカリシリカ反応抑制対策を行う場合
11	362	上から 12 行目	…所属する第三者試験機関を外部試験機関…	…所属する採取試験機関を外部試験機関…
11	366	下 11 行目	…アルカリ骨材反応対策…	…アルカリシリカ反応抑制対策…
11	366	下 9 行目	…アルカリ骨材反応対策…	…アルカリシリカ反応抑制対策…
11	367	上から 4 行目	一軸静的載加	一軸静的 <u>載荷</u>
11	49 370	表 11.1 空気量	JIS A 1106 JIS A 1108	JIS A 1116 JIS A 1118
11	370	表 11.1/注(1)	…アルカリ骨材反応対策…	…アルカリシリカ反応抑制対策…
11	371	解説 6 行目	…第三者試験機関に…	…採取試験機関に…
11	371	下 5 行目	(3)アルカリ骨材反応	(3)骨材のアルカリシリカ反応・
11	371	下 3 行目	…アルカリ骨材反応抑制対策…	…骨材のアルカリシリカ反応抑制対策…
11	376	解説表 11.10	< -20	<-20 (“<”と“-20”の間を詰める
11	50 378	表 11.2 練混ぜから打込み終了までの時間	7.2 に適合すること	<u>7.4</u> に適合すること
11	54 385	11.9b 表 11.7 部材の位置・断面寸法	2.8 に基づく…	2.7.c に基づく…
11	54 385	11.9b 表 11.7 表面の仕上がり状態	2.9 に基づく…	2.7.d または 2.7.f に基づく…
11	54 385	11.9b 表 11.7 仕上りの平坦さ	2.9 に基づく…	2.7.e に基づく…
11	389	上から 12 行目	…本会「鉄筋コンクリート建築物…	…本会「鉄筋コンクリート <u>造</u> 建築物…

節	頁	行	誤	正
11	400	参考文献 8)	…鉄筋コンクリート建築物…	…鉄筋コンクリート <u>造</u> 建築物…
13	420	解説表 13.1	日平均気温の 2004～2013 年の	日平均気温の <u>2005～2014</u> 年の
13	421	解説表 13.1 (つづき)	日平均気温の 2004～2013 年の	日平均気温の <u>2005～2014</u> 年の
14	453	上から 13 行目	…解説表 14.7 に示す	…解説表 <u>14.5</u> に示す
17	489	上から 7 行目	…建築物がすべて長期供用級または超長期供用級…	… <u>構造体の計画供用期間の級</u> がすべて長期または超長期…
17	489	上から 10 行目	…長期供用級または超長期供用級…	… <u>長期または超長期</u> …
17	498	上から 6 行目	…60N/mm ² 以上…	… <u>60N/mm² を超える高強度</u> コンクリート…
17	511	上から 3 行目	…一般のコンクリート…	…一般 <u>仕様</u> のコンクリート…
17	512	上から 14 行目	…、 <u>材齢</u> 91 日以内の材齢…	…、91 日以内の材齢…
20	550	上から 23 行目	…凍害を受ける…	… <u>初期凍害</u> を受ける…
22	587	上から 7 行目	$y=1.263x-0.718$ (解 22.2)	$y=1.263x-718$ (解 22.2)
24	95 608	24.5b 本文	特記のない場合は、3N/mm ² とする。	特記のない場合は、 <u>構造体強度補正值 $28S_{91}$ を</u> 3N/mm ² とする。
24	608	24.5b 解説 9 行目	以上から、 mS_n が特記されていない場合は、 mS_n 値を 3N/mm ² とすることとした。	以上から、 mS_n が特記されていない場合は、 <u>材齢 m 日を 28 日、材齢 n 日を 91 日とし、$28S_{91}$ を 3N/mm² とすることとした。</u>
25	628	上から 11 行目	…金属 <u>メッキ</u> 鉄筋…	…金属 <u>めつき</u> 鉄筋…
27	645	27.1 解説 4 行目	…JIS R 5214 <u>「エコセメント」</u> …	…JIS R 5214 <u>(エコセメント)</u> …
28	654	解説表 28.2	次ページ参照	次ページ参照

(誤) 解説表 28.2 凍結融解作用を受ける部位に再生骨材コンクリートを適用する条件

	再生骨材コンクリート H	再生骨材コンクリート M (耐凍害品)
26 節の適用を受ける部位・部材 (激しい凍結融解作用を受ける部位・部材)	<ul style="list-style-type: none"> 水セメント比は特記による 空気量：5.5% 品質および材料等は 26 節による 	<ul style="list-style-type: none"> 水セメント比は特記による 空気量：5.5% 品質および材料等は 26 節による
上記以外の凍結融解作用を受ける部位・部材	<ul style="list-style-type: none"> 水セメント比の最大値：60% 空気量：4.5% 	<ul style="list-style-type: none"> 水セメント比の最大値：50% 空気量：5.5% その他の条件については、JIS A 5022 による

(正) 解説表 28.2 凍結融解作用を受ける部位に再生骨材コンクリートを適用する条件

	再生骨材コンクリート H	再生骨材コンクリート M (耐凍害品)
26 節の適用を受ける部位・部材 (激しい凍結融解作用を受ける部位・部材)	<ul style="list-style-type: none"> 凍結融解試験で、300 サイクルにおける相対動弾性係数が、特記もしくは 85% 以上 空気量の下限值：4.0% その他の品質および材料等は 26 節による 	<ul style="list-style-type: none"> 凍結融解試験で、300 サイクルにおける相対動弾性係数が、特記もしくは 85% 以上 空気量の下限值：4.0% その他の品質および材料等は 26 節による
上記以外の凍結融解作用を受ける部位・部材	<ul style="list-style-type: none"> 水セメント比の最大値：60% 目標空気量：4.5% 	<ul style="list-style-type: none"> 水セメント比の最大値：50% 目標空気量：5.5% その他の条件については、JIS A 5022 による

節	頁	行	誤	正
29	671	上から 1 行目	解説表 29.1 の日数	29.8 c. の告示に示された日数
31	677	3.10c	・ ・ ・ その他の浸食性物質 ・ ・	・ ・ ・ その他の侵食性物質 ・ ・
31	678	6.1c	JASS A 5308 の規定に適しない ・ ・ ・	JIS A 5308 の規定に適合しない ・ ・ ・
31	685	上部表 コンクリートの種類・品質	浸食性物質などからの ・ ・ ・	侵食性物質などからの ・ ・ ・
付 5	701	解説表 1	S/A (%)	s/a (%)